

令和4年度伊予市自殺対策計画策定審議会 会議録

日時：令和5年2月8日（水）13：30～14：30

場所：伊予市総合保健福祉センター 会議室

【次第】

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 協議事項
 - (1) 伊予市自殺対策計画案について
 - (2) 今後のスケジュールについて
4. 意見交換
5. 業務連絡
6. 閉会

【出席者】

審議会委員：田中美和、中平洋子、小西省三、竹本厚良、森博明、坂田雅子、出来和人、三木優子、山田真由美（代理出席）、北風孝博、仲神正人、空岡直裕
（欠席：土井一成）

事務局：健康増進課（栗田計誠、田窪幸司、相田紗也可、矢野羽奈）

【内容】

事務局　それでは失礼いたします。定刻より少し早いですが皆様お揃いですので、ただいまから、令和4年度の伊予市自殺対策計画策定審議会を開催いたします。皆様には、御多忙の中、御出席をいただきましてありがとうございます。

本日進行役を務めます、健康増進課課長補佐の田窪幸司でございます。よろしくお願いいたします。これより着座にて進行させていただきます。

本審議会は、伊予市審議会等の委員の公募、並びに会議及び会議録の公開に関する規則第14条の規定に基づきまして、会議の傍聴を認めております。事前に市ホームページでお知らせしましたが、傍聴希望はありませんでしたので、御報告をいたします。

また、同規則に基づく会議録を作成するため、会議中の発言を録音させていただきます。マイクを職員がお持ちしますので、マイクでの発言に御協力いただきますようお願いいたします。

本日の資料について、事前に配付した内容とほぼ変わらないのですが、議事

の進行上、順番が変わっておりますので、今日配付したこちらを使用し、会議を進めますので御協力お願いいたします。

それでは配付資料について確認いたします。三つございます。本日の次第、令和4年度の市自殺対策計画策定審議会資料、ピンク色のリーフレット、以上でございますが、不足の物はございませんでしょうか。

事務局 それでは開会にあたりまして、市民福祉部長空岡より御挨拶申し上げます。
～空岡部長あいさつ～

事務局 本日の審議会については、委員総数13名のうち12名の方に御出席をいただきました。伊予市商工会議所の土井委員さんから欠席の御連絡がございましたので、御報告いたします。本日の審議会は、伊予市自殺対策計画策定審議会条例第6条第2項の規定により過半数に達していることから成立していることをご報告させていただきます。

はじめに、委員の皆様にご自己紹介をお願いしたいと存じます。それでは、田中会長、中平副会長からはじめまして、続いて名簿順をお願いいたします。
～委員・事務局あいさつ～

事務局 はい、ありがとうございます。

それではこれより議事進行に移ります。議事進行につきましては、審議会条例第6条第1項の規定に基づき、会長が会議の議長となることとなっておりますので、田中会長に議長をお願いいたします。それでは、田中会長まず御挨拶の方をよろしくをお願いいたします。

議長 田中ですけれども、新型コロナもちょっと落ち着きつつあるような状況で、皆様、感染対策は熟知されている状況でリアルの会議がやっと開けるようになりまして、自殺対策というのは非常に難しい課題ではありますので、地道に取り組んでいただいておりますので、活発な御討議をよろしくをお願いいたします。

それでは会次第に沿って議事を進行させていただきます。協議事項(1)取組状況について、事務局より説明をお願いいたします。

事務局 健康増進課の矢野でございます。着座にて説明させていただきます。

まず、取組状況について伊予市自殺対策計画策定の経緯を含めて御説明させていただきます。伊予市では2018年、審議会を経て、2019年3月に「誰も自殺に追い込まれることのない伊予市の実現」を目指し、5つの基本施策と、2つの重点施策、生きる支援関連施策からなる伊予市自殺対策計画を策定し、今年度で4年目となっております。

では、伊予市の自殺の現状について御説明させていただきます。審議会資料の2ページの方を開いていただけたらと思います。2ページの上段の自殺者数の推移を御覧ください。2010年から2021年までの自殺者数を伊予市、愛媛

県、国でまとめております。2021年における伊予市の自殺者数の内訳を見ると、6名全員が男性という状況です。下段の折れ線グラフは2018年から2022年までの国における月ごとの自殺者数の推移をまとめております。本来自殺者数が一番多くなるのは3月と言われておりますが、新型コロナウイルス感染症が出現した2020年以降は例年の推移とは異なる状況が見られます。これは緊急事態宣言やまん延防止等重点措置といった施策で行動が制限されたり、経済活動の停滞を通じて失業率が悪化したり、また著名人の自殺が相次いだりといったことが影響していると推測されています。

次に3ページの上段を御覧ください。2010年から2021年までの人口10万あたりにおける自殺死亡率の推移を伊予市、愛媛県、全国でまとめております。愛媛県、全国においては2018年までは減少傾向にありましたが、2019年以降横ばい、若干の上昇が見られます。本市においては、年ごとの増減が大きく比較しにくくなっておりますが、国、県同様に、この3年ほどは横ばいの状況となっております。

続いて3ページの下段から4ページにかけては、2017年から2021年の自殺者数の合計を基に、性別や年齢階層別で比較しました。まず3ページの性別におきましては、本市では4分の3が男性と大きな性差があります。

続いて4ページを御覧ください。上段が年齢階層別の全体、下段は本市における男女差での年齢階層別のグラフです。本市については全体において50代が最も多く、また20歳未満につきましても、県、国よりも多くなっている状況です。

このように本市においては働き世代、また、児童生徒などの20歳未満の自殺者数が増えておりますが、5ページめくっていただいて、本市の職業別の自殺者数の割合というのを示しているのですが、無職または年金や雇用保険等の生活者が60%以上を占めている状況で、経済的な問題も潜んでいるのではないかと推測しております。

事務局

健康増進課の相田です。続きまして伊予市の自殺対策計画の進捗状況について御報告をさせていただきます。

折り畳んでおります6ページを開いて御確認いただいたらと思います。本計画が開始となった2019年から、それぞれの政策に合わせてまとめております。2021年度は、コロナウイルス感染症拡大のため、審議会の書面開催をはじめとして、中止せざるを得ない状況が続いておりましたが、今年度2022年度におきましては、ゲートキーパー養成講座、研修会ともに開催することができ、正しい理解や啓発の促進を進めることができました。

また、児童生徒に対しましては、市内養護部会の先生方の活動の中にある心の問題における対策等の資料作成の内容の助言等を行うとともに、2月末には

市内小学校の学校保健委員会へ出前講座を実施する予定となっております。

また、通年で実施しております関係機関との連携やこころの相談におきましても、対象者に合わせて生きる支援を行えるよう、個々の対応や関係機関との調整、支援体制の構築を図っているところでございます。以上で取組状況の説明とさせていただきます。

議長 そしたら、ただいまの御説明につきまして御意見、御質問等がありましたらお願いいたします。

委員 2022年の警察庁の発表の数はですね2万1584と、少し去年2021年より増えています。伊予市の去年に関しては、もう時間的には出ているんじゃないかな。警察とか数字はないですか。全国はもう出ています。

事務局 すみません、失礼致します。こちらの方の「自殺者の推移等の統計」を見ていただいたらと思いますけれども、一応基本のデータとして厚生労働省が発表している「地域における自殺の基礎資料」をもとに、データの方は集計させていただいております。先生の言われる通り、警察庁の方も発表されてはいるんですけれども、今現段階でこの地域における自殺の基礎資料の年間の発表は、まだ厚生労働省から出ておりませんので、そちらの方を確認してからの2022年の伊予市の状況になろうかと思えます。

委員 市町村から厚労省に行って戻ってくるわけですよね。市町村の方が先に自分のところを把握してるんじゃないですか。

事務局 こちらは「地域における自殺の基礎資料」に基づくものにはなるんですけれども、健康増進課でその死亡表とかっていうものを確認しているものではなく、別のルートになりますので、どの方がどういう経緯で亡くなられたかっていうのは保健センターでの把握ができない状況にありまして。なので結果としては厚生労働省からの発表等を用いて推計をしているというのが実態であります。

委員 すみません、発言させていただいてもいいですか。自殺統計を扱っているので発言をさせていただきます。

確かに去年の暮れに全国の2022年の数、暫定値という形で自殺者の数が出て、それは前年よりもちょっと増えているということで、課題をいただいております。警察庁の統計ですので、発見された日とか、他所から愛媛県に入って来られてそこで亡くなられている人とか、そういう整理がまだきちっとできておりませんで、先ほど相田さんが言われたような統計になるためには、そこら辺の精査をして確定値という形で数値を出すことになるかと思えます。日本全体でいったら数がそんなに大きくは動かないと思うのですが、伊予市のような6人とかそういう数字ですと、お一人でも他所から入って来られて警察の方が把握してっていう形の数字で上げられると、大きく変わってくるので、おそら

くそこら辺できちんと精査されたものを検討いただく形になるかなと思って
おります。

委 員 こういう場だからこそ早めに発表したらいいんだろうけど。

委 員 概ね正確であればそれはあり得るかとは思うのですが、なかなか県外から入
っているとか、亡くなった人が本当はいつ亡くなったか、自殺をされた日での
統計になるんですけど、発見の日とか、いろいろずれてくると、数が少ないと
ころではいろいろ課題が出るかなというふうに思います。

委 員 だいたい警察庁が1月、厚労省は3月ですよ。警察どうですか。

委 員 失礼します。伊予警察署です。先ほど小西委員の方から、ご質問があったん
ですけれども、保健所さんと同じで、今暫定値の方はおそらくあるんだと思う
んですが、確定というのが必ず2月中旬以降に発表になっております。やはり
その統計上の問題がありますので、まだ発表できる段階にないということでご
理解をいただけたらと思います。すみません。

議 長 他にどなたかございませんでしょうか。

それではあとはないようですので、以上で協議事項（1）終わりにして、続
いて協議事項（2）の今後のスケジュールについて事務局より説明をお願いい
たします。

事務局 失礼いたします。では続きまして今後のスケジュールについてお伝えをさせ
ていただきます。まず、7ページをご確認いただけたらと思います。

まず、本計画の企画延長についてお話をさせていただきます。本計画の関連
計画であります「伊予市健康づくり計画・食育推進計画」におきまして、国と
県の計画が勘案されて策定することとされておりますが、国と県の計画が1年
延長されることになったことを受けて、伊予市の健康づくり計画・食育推進計
画におきましても、1年延長して令和6年度、2024年までの計画となりました。
これに伴いまして本計画につきましても、令和6年度までの6年間の計画
とさせていただきます。関連計画との調査を図るとともに、次期計画の策定
に向けた調整を行っていきたいと考えておりますので御審議いただけたらと
思います。

次にそれにあわせまして1ページ戻っていただいて、6ページになるんです
けれども、前後して申し訳ございません。一番右の欄に案としまして、2023年
から2024年の計画を示しております。来年度以降になりますが、次期計画を
見据えた準備期間として各施策のスケジュールを組んでおります。赤字のと
ころが主な内容になっておりますが、こちらに関しましては詳しい内容を8ペ
ージに記載しておりますので8ページを御覧いただけたらと思います。

先ほど統計の状況を御報告させていただきましたが、その状況から一つ目と
して働き世代、また児童生徒に対して集中的にアプローチを進めていきたいと

考えております。まず、働き世代へのアプローチ、資料の「ア」のところとしたしましては、市内事業所や商工会議所等に対しまして、伊予市をはじめとした現状や正しい理解を深めるためにゲートキーパー養成講座の開催の協力依頼を行いたいと考えております。お手元にありますピンク色のリーフレットを参考にしながら、市内事業所や商工会議所向けへのチラシ配布などを通して自殺予防対策に努めて参りたいと考えております。

また、「イ」になります、市内小中学校における SOS の出し方教育の実施についてです。実施状況の把握を努めるために、学校への出前講座におきましても積極的に行いたいと考えております。校長会や養護部会等に対しまして、理解、協力をいただきながら進めていきたいと思っております。

最後、「ウ」になります、次期計画に向けた基礎資料とするために、市民の意識や対応等の理解度を把握することを目的としたアンケート調査を実施する予定としております。自殺対策計画は市民や地域のネットワークの理解、参加を得ることが予防対策として重要と考えております。そのため、市民へのアンケートを基に実効性のある計画を策定できるよう実施することとしております。以上の議事について、御審議のほどよろしくお願いたします。

議長 ありがとうございます。ただいま計画期間の変更および今後のスケジュールについて説明がございました。生活苦とか過労によるうつ状態とか、そういうことが原因のことが多いようです。このことにつきまして何か御意見とか御質問ありましたらよろしくお願いたします。はい、三木先生お願いたします。

委員 はい、失礼します。計画を1年延長するという事でお聞きしましたが、目標値を設定しておられたかと思うのですが、あれに関しては取り扱いはどうなるのでしょうか、教えてください。

事務局 失礼いたします。計画は2019年に策定したんですけれども、一応このときでは5年間にしておりましたので、2023年は17.7ということにしているんですが、その次の年、2024年には17.1で、最終的に2026年度までに30%以上減少させるという自殺総合対策大綱に基づきまして、この減少率を根拠とした目標数値を各年で挙げておりますので、2024年には17.1の自殺死亡率になるような目標計画として進めていけたらと思っております。お手元に自殺対策計画がございましたら、その3ページの表1に国の方針に基づく伊予市、国の自殺死亡率の推計というものを記載しておりますので、そちらに基づきながら今後も進めていけたらと思っております。

議長 他にどなたかございませんでしょうか。仲神先生よろしくお願いたします。

委員 お世話になっています。中学校ですけども、この対策計画が始まってから、私は伊予市におりませんでしたのでわからないので、ちょっと教えて欲しいんですけども、市内の小・中学校での働きかけの出前講座というのは、具体的に

こういった形のものなのか教えていただけると、また校長会でも話ができるかなと思いますのでお願いします。

事務局 失礼いたします。学校の SOS の出し方に関する教育についてなんですけれども、基本としては自殺というものをテーマにするのではなく、つらいときや苦しいときにはしっかりと助けを求めましょうという形であったり、そういうお友達がいた場合にどのような声掛けをするかといった仲間作りも含めた内容としております。

なので心の問題というよりかは、そのストレスにどのように向き合うかということであり、あと子供たちがそういうふうに感じることもあるのも成長の中では当たり前ということも含めながら、その対策を作っていく中で子供 1 人 1 人が強い力を身につけていけるような、学校で直面する問題であったり、その後成長していく中で対処する力を身につけていただけるような講座としております。2021 年に双海中学校と佐礼谷小学校でそれぞれ小学校向け、中学校向けをさせていただきました。なのでまた必要ありましたら、そのときの資料等も御提供できるかと思っておりますので、また教えていただけたらと思います。

委員 ありがとうございます。

議長 他にどなたかございませんか。どうぞ。

委員 失礼します。次期計画に向けたアンケート調査の実施ということなんですけど、この対象者はどのように抽出されるのかということと、世帯単位にするのかそれとも個人単位にするんでしょうか。そこら辺を教えていただけたらと思います。

事務局 失礼いたします。令和 5 年度に計画しているアンケート調査なんですけども、個人に対して無作為抽出をかけまして設定しようとしております。大体 1500 人程度を計画しております。

委員 ありがとうございます。

議長 よろしいでしょうか。ほかございませんか。

それでは以上で協議事項 (2) は終わりました、これから意見交換になります。事務局から今後医療機関と連携して推進していただきたいという説明がございまして、委員の皆様それぞれの立場から現状や関係機関として御意見があればお願いいたします。よろしく願いいたします。

副議長 感染症がこれだけ広がる中でも継続的に事業が行われていたということ、今回この計画を見せていただき、改めて知ることが出来まして素晴らしいことだなというふうに思いました。男性の方の数が多いから事業所に働きかけるということで、私も本当に大事なことだなというふうに思いました。

今日見せていただいたあのピンクのパンフレットなんですけど、これもご本人がなかなか気づきにくい状況になったり、SOS を出しにくいときに周りの

人からってということで、とてもいいパンフレットだなというふうに思います。またそれと同時に、こういうところに相談へ行こうと思ったとき障害になるのが、名前を言わないといけないかどうかということであるとか、秘密が守られるかどうかということであるとか、それから私どもの学校を見ていると自分の悩みはまだまだこんなところに相談するほどのことじゃないってというような、もう十分相談したらいいと思いますよって思うことでも、まだまだこんなことで相談するほどの状況じゃないとか、そこまでひどいことはない、自分はその特別な状況じゃないみたいな、なんかこのあたりが私とこの学校のカウンセリングを使ったりするときにも障害になっているように思うんですよね。

なので、いろんなところに秘密が守られますってということか、匿名でいけるかどうかということ、最終的にはそれではいけないと思うんですけど、取っ掛かりとしてできるかどうかということか、例えばこんなことでもご相談いただけますよってというような例と言ったらいいんでしょうか。いやこんなことで相談していいんかなって思う方が、あーいいのかって、こんなことでいいんやなって思えるような状況とか相談内容をちょっと載せるとか、そこの入り口に一步踏み入れられるような工夫がチラシとか、ホームページとかでまたできていけばいいかなというふうに思って、これを見させていただきました。

それから私どものところも県からいただくステッカーを、本当にほっと一息つくようなとか1人になるような、あのトイレの部屋の中とか手洗いのところにシールとかも貼ったりしているんですけど、そういうふうな媒体みたいなのも作ってみるのもいいかなというふうに思ったりしました。

それと同時に市内の事業所なんですけど、ちっちゃいところが多いんでしょうかね。衛生委員会みたいなのがないような、ちっちゃい事業所とかが多いんでしょうかね。大きい事業所でそういう委員会なんかもあるようなところと、小規模なところだと、またアプローチの仕方を変えた方がいいのかなと思いますので、またそこら辺をみられて方法を工夫されるのもいいかなと思いました。以上です。

議長 他にございませんでしょうか。仲神先生よろしく申し上げます。

委員 度々すみません。先ほど言われたんですけども、前もここで同じような会があったときも言ったんですけど、どこで何を話したらいいかわかんっていうところが届きにくいってというのはあるので、こういうときにはこういうところで話ができるっていうのをお知らせするってというのは一番大事だと思うんですけど、学校でも特別支援のことであったり、そういったパンフレットをお配りするんですけど、なかなかその表記の仕方も難しいんですけども、やっぱりそれをどうしていくかっていうのを考え続けてお知らせしていくのが一番大事なのかなと思いました。

あと1点8ページのところにあるスケジュール表に東温市で市内全小・中学校で実施されたのは、多分この前の年に東温市の中学生が自殺したという事件がありました。それを受けてあったと思うんですけども、あってからでは遅いので、学校では子どもの健康チェックとかですね、本校でも月1回アンケートをとったり、それから市の方からはカウンセラーの先生とかスクールソーシャルワーカーの方とか、巡回相談員の方とか外部の方が週に1回来られたりっていうふうなこともしていただいていますので、何とか子供たちの内面が出せる工夫はしてるんですが、そういったことも一つ役に立っているのかなと思いますので、また引き続き御協力いただいたらと思います。お願いします。以上です。

議 長
委 員

いかがでしょうか。小西先生いかがですか。

このコロナ禍でこの3年ですね。うつは増えてない。軽い不安のレベルの人たちが増えているのと、一番目立つのはですね、若い人、あと50代もいますけども、休みたい、診断書ほしいと、そういう人たちがもう増えています。特に一時Googleマップに診断書を書いてくれるというようなのが出てましてですね。そんなんばかりで本当に嫌になったという、それが現状です。

例えば診断書を書いて全く来ずに最後ぐらいに傷病手当の診断書を書いてくれと。そう言った人たちが増えています。お金には困ってるんだろうけど、病的にそう重くはない。今のところはですね。今、全国で女性と若者の自殺が増えているということで全体の数が増えたようですけども、それで伊予市は去年が男性ばかりの、ちょっと不思議だなと思って。で、この22年はどうなってるのかというのがぜひ聞きたいなと思っています。はい、以上です。

議 長
事務局

ありがとうございます。ほかございませんでしょうか。

せっかくの機会ですので、どんなことでも構いませんので情報提供でもいただけたら、事務局として助かります。よろしく願いいたします。

議 長
副議長

お一人ずつ、御意見何か言っていただいてもよろしいでしょうか。

私は先ほど言わせていただいたことぐらいです。本当に継続して活動がこの社会の中でできたということが本当に素晴らしくて、皆様の努力のおかげだなというふうに思います。数がどのぐらい今年なっているかわからないということですけども、世界中厳しい状況でありましたので、その中で跳ね上がるということではなくやれたのは、やっぱり現場の皆様の努力がずっと今までの積み重ねも含めてあったんだろうなと感じながら、今日はここへ座らせていただきました。

先ほど言わせていただいたようなちょっとしたやり方みたいところは全然お金もかかりませんし、何か知恵を出し合えばアイデアが見つかっていかなというふうなことで、とりあえず思いついたことを言わせていただきました。ありがとうございます。

議 長 三木先生の方よろしいでしょうか。

委 員 はい、失礼します。管内は5市町あり、全部の自殺対策計画に関わらせていただいているのですが、伊予市の計画は条例で設置されているような審議会での策定ということで、一番位置づけとしては重いと言いますか、しっかりされた計画だというふうに思っております。

市役所の中でも連絡会とかいうものもおありというふうに聞いておりますし、ゲートキーパーを養成したりとかもされていて、理想的にはそれぞれの市のいろいろな部署の職員さんがゲートキーパーとなってお自分の仕事の中でも、もしかしたらこの方心配かもしれないというのは、横の連絡で未然に防ぐっていったような、そういう取り組みをするというところがすごく素晴らしいなと思っておりますが、実際庁内でこの計画ができたことによって、その辺りの動きがどうなのかというようにことをお聞かせいただければと思います。他の職員さんも我がことのように、自殺者を出さないためのいろいろな配慮をしていただけるような、機運が盛り上がっているのかどうかということです。

事務局 失礼いたします。この自殺対策計画を策定したことに基きまして、スケジュールの中にも書かせてはいただいているんですけども、職員向けのゲートキーパーの養成講座を実施しております。この目標に関しましては、一応5年間で全職員が受講することを目標にしておりまして、今のところ順調に受講の方進んでおります。

まずこのゲートキーパーを部長、課長といった管理職から受講していただくことによって、まず上の理解を得た上で現場に生かしていくという形をさせていただいているんですけども、実感といたしましては、ある程度の中で何かの相談に来られた方が精神的にもしんどそうとかフォローもいるんじゃないのかといった場合には、部署から協力依頼が来たりとか一緒に連携したりとかってというような動きも取れています。

また、このゲートキーパーに関しましては、伊予消防の消防隊の方にも参加いただけるようにご案内をさせていただいております。その中で保健所が作っていただいているリーフレットの活用の仕方の相談であったりとかっていうのにも、繋げていけているような状況です。また来年以降、力を入れていきたい市内事業所に関しましては、担当部局となります課との調整をしながら、商工会議所等へ理解を得ている状況になっていきますので、徐々にではあります横の連携は作れていけているかなというのが実感です。

委 員 ありがとうございます。安心いたしました。あと保健所も役割分担しながら自殺対策を進めているのですが、保健所で特徴的なのは自殺未遂者の支援をやっているということなんです。自殺未遂者っていうのが一番自殺するリスクが高い方たちということで、自殺未遂を繰り返しているうちに本当に亡くな

ってしまうということが多いので、1回でもそのような未遂歴のある方はフォローしていくということで、なかなか消防の方もいつもご心配いただき、何か関われないだろうかとかいろいろおっしゃっていただきますし、二次救急の病院に運ばれることが多いので、そちらからの情報提供、患者さんへの説明とかそういうことをしていただいた上で保健所の方に回ってくるということで、そこら辺がスムーズにいくような研修とか、事例発表だとかそういうようなことをして、安心してこういう事業に取り組んでいただけるような環境を整えつつあるところです。以上です。

議長 はい、ありがとうございます。伊予警察署の方から何かございませんでしょうか。

委員 はい、伊予警察署です。主にですね、私の方が普段の仕事で少年係の仕事をしていますので、子供さんの自殺防止に対する、警察での取り組み状況についてご説明させていただきたいと思います。

全国的にですね、お子さんについては自己肯定感がちょっと下がっておられる子が増えてきているのか、SNS、Twitterなどでですね、悩みを相談して、誤った情報、自殺の方法とか、そういうのにアクセスをして死ぬつもりはないのに、結果亡くなってしまったということもやはり出てきているように感じております。我々警察といたしましては自殺も含め、性被害も含めなんですけども、そういう悪いサイトにアクセスしないようにフィルタリングサービスの設定とか、悩みについては身近にいる大人に相談をすること、ネットの見ず知らずの人には相談しないようにということで、各種講話等で皆さんに指導をしているところであります。

校長先生も来られておられますので、様々な機会を通じてそういう有害情報にアクセスをしない広報なども、子どもさんに特化する支援としては、まだ検討の方をお願いできたらと思っております。以上です。

議長 伊予消防署北風署長さんはよろしいでしょうか。仲神先生よろしいですか。

委員 一つこれ見て思い出したのは、いい話があって。この24時間子供SOSダイヤルっていうのって私が港南で教頭をしていたときにですね、これに電話した子がおりまして。多分今の時期やったと思います。3年生の進路を悩んでいるお子さんの友達から電話あって、たまたま県で受けた人が、私が港南で教頭しているのを周りの人が知って、個人的に電話かかってきたっていうのはあったんですけど。その子は友達が死にたいっていいよるんではないかって言ってきて、誰やろかということでちょっと動いたんですが、わかりまして。その子が電話したって言うたらいかんので、遠回りにお話聞いて困ってるっていうことがわかったっていう事例があります。子どもたちにはこんなちっちゃなSOSダイヤルっていうのを年に何回か渡すんですけども、やっぱりそういう

効果あるんだなってのはその時感じました。だから呼びかけたり、パンフレット渡したり言ったりっていうことをして、周りがこう繋がってるんだっていうことも子供たちに伝えていって 1 人じゃないよっていうふうなことは伝えていきたいなど。そういう例がありますのでまた皆さんで御協力お願いします。以上です。

議長 　　そしたら竹本さんよろしいでしょうか。

委員 　　具体的な数字とかで御報告することはありませんので、司法書士会の取組、どういう取組をしているかっていうのを簡単にこの機会にお話させていただきたいと思います。

司法書士は自殺総合対策大綱というところで、ゲートキーパーとしての役割が求められておりますので、それを受けた司法書士の全国組織、日司連というんですけれど、そこで自死問題対策会というのを設置しております。ここでは学会の参加とかですね、各地域での自殺予防集会とか、自殺対策協議会でのキャンペーンへの協力とか、あと医療、福祉と連携した多職種での包括相談会とかを実施していたようです。

また全国の会員に対してですね、月 1 回の会報があるんですけど、月報司法書士っていう、そこで自死問題の特集を組んだりして司法書士の自殺対策とか相談対応を適切に行えるようにですね、指導しております。研修用 DVD とか各県会、愛媛県でも配布されましたけども、配布したりしてですね、会員のスキルアップをはかっているところです。

それと愛媛県会なんですけど、その日司連の意向を受けてですね、コロナ禍前まではさっき言いました多職種の相談会、ここから相談とって心と暮らしの無料相談会っていうのを実施して、事業として取り組んでいたんですけども、残念ながらコロナで中止しております。ですから今のところは相談会とかですね、事業としての相談会とか心の活動とかは行えていないんですけど、今後そろそろ積極的に活動を再開したいという考えでおるようです。今のところですね、個々の司法書士事務所でそれぞれ相談、対応しているという状況です。はい、以上です。

議長 　　ありがとうございます。森さん、よろしいでしょうか。

委員 　　愛媛産業保健総合支援センターの森です。私どものセンターにつきましては、各都道府県に設置されておまして、主に事業所、職場で産業保健活動に携わる産業医の先生ですとか、保健師の方、また衛生管理者、事業主また労務会社の方などにですね、産業保健に関するいろいろ支援、相談等を行っているところでありますけれど、その中にはやはり自殺対策関係につきましては、メンタルヘルス対策ということで職場でメンタル不調になられてるような方についてですね、会社の方が労務管理、衛生管理者の方がどうしたらいいんだろ

うかというふうなことで当センターの方に相談等がありましてですね、簡単な相談であれば担当の者で受けたりとかですね、専門的な相談につきましては、産業保健に関する専門の先生方いらっしゃいますので、そういった方の相談対応などの支援を行っているというようなところでもあります。以上です。

議 長 坂田さんよろしいでしょうか。

委 員 今年に入ってからですね、数年前に私どもが関わっていた方の娘さんが自殺未遂されていたんですが、今年に入ってからもう1回されて、今度はもう亡くなられたという、ケースがありまして、やはり先ほど言われたように未遂者への支援っていうのは大事なんだなと思っているところです。また先日ある高齢者の方で奥様を亡くされて、死んだほうがましって言われている方がいらっしゃったんですが、その方も数年前にですね、その時は息子さんを亡くされて、そのような心境になって、ちょっと自殺未遂っぽいことを行動をされたんですが、またそのようなことを言われているので、ちょっとこれは本当に寄り添って何とかそういう気持ちにならないように対応していかないといけないなと思っているところです。またそういうふうな自殺という具体的な言葉を言われない方でも、いろんな病気のお悩みを抱えていらっしゃるって、何で生きているのかわからないというような発言を、早くお迎えが来たらいいのにな、みたいなことを言われる高齢者、たくさんいらっしゃるんで、ちょっとそれぞれの方のお気持ちを伺って、寄り添って何とか生きていくための何か目的というか元気になるような何か支援をしていけるように、ちょっと毎日、今日も頑張っていきたいと思っております。以上です。

議 長 出来さん、何かよろしいでしょうか。

委 員 社協の出来です。社協ではコロナ禍においては、県社協のコロナの貸付けということでたくさんの方が困窮者ということでこちらの方に相談に来られて貸付けを行って、そのときに窓口として職員が対応している状況を聞くと、そういうような取組を行ってきました。そして最近ではこちらフジの方と地域事務所の方へ出張相談という形で、何でもいいんで相談をということで、相談を受けるような形で月に1回相談会をやっております。以上です。

議 長 ありがとうございます。他にございませんでしょうか。伊予市のデータを見ると20年度、21年度の目標値を下回ってるような感じでみえて、努力されてると思うんですけども、我々もこの人がちょっと危なそうよ、様子を見て欲しいというようであれば、それは保健センターの方に連絡したらよろしいでしょうか。

事務局 はい、そうです。

議 長 はい、わかりました。ほかはよろしいでしょうか。

それでは御意見も出たと思うので、ちょっと時間が早いんですけど、以上を

持ちまして議事進行を終わらせていただきます。御協力ありがとうございました。

事務局 はい、田中会長ありがとうございました。議員の皆様につきましても、本日は貴重な御意見をいただきありがとうございました。御意見を元に、「誰も自殺に追い込まれない伊予市の実現」を目指し、引き続き関係団体と連携を図りながら計画を推進してまいりたいと存じます。

事務局から一つ、事務連絡がございます。伊予市特別職の職員の報酬及び費用弁償に関する条例に基づきまして、委員の皆様には報酬をお出ししておりますが、今年度より口座払いとさせていただきますのでよろしく願いいたします。

最後に健康増進課長栗田より御挨拶申し上げます。

～健康増進課長栗田あいさつ～

事務局 以上を持ちまして、令和4年度伊予市自殺対策計画策定審議会を閉会いたします。御協力ありがとうございました。お気をつけてお帰りください。